

第46回富山県手をつなぐ育成会大会
を開催しました!
 平成30年6月3日(日) 上市町・北アルプス文化センター



手をつなぐ

とやま

第168号
 富山県手をつなぐ育成会
 富山市安住町5-21
 富山県総合福祉会館内
 TEL 076-441-7161
 FAX 076-441-7255
 mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
 HP <http://toyamaikusei.jp/>
 発行責任者
 平野 幹 夫

みなさんの会報です
 よく読みましょう

— 運転は 心の広さの バロメーター —

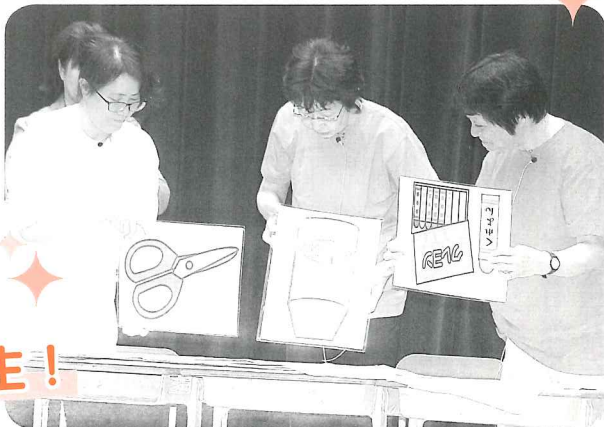
本人大会・話し合い



レクリエーション



障害への理解啓発活動を行う
キャラバン隊
「ぱすてる」誕生!



(県大会で、ミニ公演を行いました)

大会式典



大会式典

平成30年6月3日(日)、第46回富山県手をつなぐ育成会大会を、中新川郡上市町の北アルプス文化センターで開催いたしました。

さわやかな晴天に恵まれ、育成会大会には約390名、本人大会には、ボランティアを含めると約220名と、多数のご参加がありました。

式典では、上市町・小竹副町長を始め、たくさんのご来賓の皆様にご来賓の皆様が心あたたまる激励の言葉をいただき、参加者一同、大変励みとなりました。



開会の挨拶
滑川・中新川エリア 金山代表

社会の実現



大会長挨拶
四方理事長



歓迎のこたげ
上市町 小竹副町長

— おたがいに 気づかう心で 明るい社会 —

大会決議は、滑川支部の高井さんが、障害のある人もない人も、一人ひとりがかげがえのない存在という価値観を訴え続けること、地域における共生社会の実現を求める姿勢をはつきりと伝えていくことを確認して、「地域共生社会の実現」を目指し、10の項目を読み上げられました。



大会決議文朗読
滑川市部 高井さん



本人「明るい立山の会」
挨拶 谷井会長

施策の充実や社会の理解が広く得られ、本人の幸せと家族の安心を願って開催した今大会は、残念ながら従来よりも参加者が少なくなりましたが、相談支援の大切さを学び合った全体研修会をはじめ、今春発足した「権利擁護推進委員会」の活動報告、同じく今春誕生した、知的障害への理解啓発活動「キャラバン隊」の紹介とミニ公演など、盛りだくさんの内容となり、大変充実した一日となりました。

本人大会決議は、会長の谷井さん、副会長の串岡さんが、「私たち自身の思いをよく聴いてください。私たちはたくさんの方の経験を通して、自分で選び、決めたいです」と、みんなの思いを読み上げました。



本人大会決議文朗読
串岡さん



感謝状

- ・新木 俊子 (四ツ葉園)
- ・高木 伸治 (四ツ葉園)
- ・野島 真裕美 (社福 新川会)
- ・山下 早苗 (セーナー苑)
- ・前島 靖彦 (セーナー苑)
- ・岸岡 信也 (新川むつみ園)
- ・高木 寛子 (新川むつみ園)

表彰

おめでとう
ございます



来年の大会は、
射水エリアでの開催です！



表彰状

- ・金瀬 隆 (いみず苑)
- ・大浜 清美 (新生苑家族会)
- 「ハッピーバンド」代表

— なくそう差別 守ろう人権 —



今年もたくさん販売協力、
ありがとうございました

事前準備から当日の運営について、滑川・中新川エリアの会員の皆さんには多大なご協力をいただきました。

とても暑い日となり、みんなで汗をかきながら動き回った一日でした。

本人大会でも、県内施設職員様をはじめ、地域のボランティアの方々にも多数ご支援いただき、安心して楽しい一日を過ごしました。

ご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました！

隊員、募集中！



ミニ公演を行った、知的障害への理解啓発を行う「キャラバン隊」については、12ページをご覧ください。

<県大会 全体研修会>

「今の暮らしと将来の生活設計」

～本人に寄りそう相談支援～

◎基調講演 又村 あおい 氏 「“計画相談”で描くライフプラン」

全国育成会連合会 政策センター委員、冊子「手をつなぐ」編集委員

◎話題提言 高木 誠一 氏 「親亡き後の地域生活を支える」

全国育成会連合会 政策センター長
(社福)ひかりの園 理事、浜松協働学舎企画相談室長



ここ数年、制度が大きく変わり、障害のある人が地域で安心して暮らしているけるよう、様々なサービスが増えてきました。
また、障害福祉サービスを利用する際には、「サービス等利用計画」の作成が必要となりました。
今回は、今の暮らしと、将来の生活設計に結びつく「相談支援」の必要性・重要性について再確認し、私たち親や家族が、相談支援との関わりにおいて「意識」しておくことを学び合う機会となりました。

— 子がまねる 親の正しい 歩き方 —

「本人に寄り添う相談支援について」

上市町 塩田 研三

又村あおいさんの「サービス等利用計画にストーリーはあるか」という問いかけが響きました。
例えば、「障害がある↓継続B型通所だ」ではなく、「将来の希望」【困りごと】【求める暮らし】が本人・家族・相談員で話し合われ、引き継がれ、日々の生活が見守られていけば、自立支援協議会などにおいても、そのストーリーが、地域生活支援の足りないところを「見える化」してくれ、多くのニーズとして地域で取り組まれていくことになる。
これは、親にとっても、相談支援事業者にとっても必要なことだと感じました。

の具体（日常生活の見守り、自立した将来像、権利擁護）、そして、親の代わりを果たすべき仕組みづくりを紹介され、実際あった事例で描いてみせてくださいました。
相談支援の事例を通して、『親亡き後の支援』は、親生存中から、親も子も家族丸ごとの支援計画の中で相談支援事業所、医療機関、包括支援センター、福祉サービス事業所、社会福祉協議会（日常生活自立支援事業）、成年後見センターなどと協同しながらやっていく必要がある。それを『リスクは地域にばらまき』『支援の束をつくる』という言葉で表現されていました。
現実には、日常生活の見守りにあたたかし、本人の自立した将来像をなかなか描けない自分がいたり、本人の成年後見制度や人権等の権利擁護のことまでなかなか思いが至らない自分がいたりします。
具体的な事例を通してのお話で、我が子との関係を改めて俯瞰して考える機会をいただきました。ありがとうございます。

相談支援は親亡き後の

「命綱」

講師の二人が揃って強調されたのは、障害のある子どもへの支援のベースは「親」が担い、サービスの組み合わせを考え、地域での暮らしを支えているが、「親亡き後」は、誰が本人と一緒に、その後の暮らしぶりを考えてくれるのか、ということでした。

介護のケアプランは、家族介護を前提としていますが、年齢的に親が子より先に亡くなっていく障害福祉の場合には、家族介護を前提にすることはできません。

又村さんは、「サービスイ等利用計画」は、単なるサービスの利用予定表作りではなく、本人の将来への希望や現在の困り感、家族の意向を踏まえながら、どのような支援が必要なのかコーディネートしていく「ライフプラン」作りであるべき、相談支援は親亡き後の「命綱」であると強調されました。高木さんは、本人のことを本当にわかってくれるのか、護つてくれるのか、ゆだね切れないうい、「親亡き後」に漠然とした不安があるとされ、将来安心して託していくためには、本人と親が一

緒になって、「これまでどんなふう生きてきたのか、これからどんなふう暮らしていきたいのか」を、とことん支援者に伝えていくこと、書き残しておくことが大切であると助言されました。

富山県育成会では、「安心サポートノート」を会員に配布し、子どもの記録や親の思い、将来の希望を記録することを推進しています。

「親亡き後」に安心してつないでいくために、また、本人の思いに寄り添う支援につなげていくために、ノートを利用しながら、思いを伝えていきませんか？

「権利擁護推進委員会」が発足しました！

「権利擁護委員会」を設けて、様々な活動を行っている育成会が、全国各地に増えています。

富山県育成会でも、これまで全国育成会の権利擁護委員として活躍されてきた細川瑞子さんを中心に、「権利擁護推進委員会」を発足させ、大勢の皆さんが集う県大会の場で、活動の目的やプロジェクトの内容について、細川さんより報告していただきました。

無関心 見て見ぬ振りから 差別の芽



若い親の不安に寄り添おう

難しいイメージがある「権利擁護」ですが、その範囲はとても広いため、とりあえずできる活動からと話し合った結果、まずは、育成会の原点であり、時代が変わつた今も変わらず大事な、「若い親の不安に寄り添うこと」から始めようと思われました。

教育や相談の制度が整い、福祉サービス等も充実し、何不自由なく過ごしているように見える若い世代ですが、地域の支援学級に目を向けると、仲間や必要な情報が少なく、親も不安を抱えているようです。

また、支援学級に限らず、支援学校の親にも、子育てや将来への漠然とした不安や悩みがあるように感じられます。

そこで、同じ不安な思いを仲間

と共に乗り越えてきた私たちが、その悩みに寄り添い、孤立感を和らげることができないか、プロの相談員ではなく、同じ親の仲間だからこそ、「共感」ができるのではないかと委員会で話し合いをしました。

親子で楽しく参加しながら

富山県育成会では、若い世代の会員の減少が顕著です。また、研修会を除き、学齢期や若い世代に向けた活動がほとんど出ていません。

委員会に参加している学齢期の方々の率直な意見をお聞きして、第一歩として、親子で参加できる楽しい活動を通して、同じ仲間として、さり気なく寄りそっていくことから始めようと、現在、イベントなどの計画を立てています。同じ経験をしてきた親だからこそ、できることがあるのが、「育成会」の良いところです。

気持を受け止め、次世代につながっていく。この育成会の土台となる新しい活動に、たくさんの会員の皆さんが積極的に関わってくださいますよう、よろしくお願いたします。

本人大会 話し合い

特別ゲストに、又村あいさんを、お迎えし、「暮らし、仕事、将来について、みんなで話そう！」というテーマで、午前の部を行いました。

最初は〇×カードを使い、「なんだか将来が心配な人」、「お金をすぐに使ってしまう人」、「今と違う仕事してみたい人」など、いろんな質問をしながら、生活や、将来への思いをアンケートしてみました。



続いては、最近、新しい「生活」を始めた2人にインタビュー。

— 人権は かけ声よりも 心がけ —

昨年からグループホームで暮らし始めた、富山市の浅岡さんからは、「とても寂しくて、お母さんと携帯電話でいつも話をしていきます。でも少しづつ慣れてきました。」と語ってくれました。

昨年一人暮らしを始めた、高岡市の中村さんは、一人暮らしを始めたきっかけや、大変なことなどを話してくれました。

自立した「生活」にチャレンジしている二人の話には、みんな興味深々、もっと詳しい話が聞きたいという声があがっていました。

特別ゲストの又村さんには、「夢を語ろう！」というテーマで、沢山のことを教えてもらいました。



大きな夢から小さな夢、やってみたいこと、行ってみたいところ、たくさんの「夢」を発表しました。又村さんからは、「夢は、一人一人違うもの。夢や目標、希望を持つことはいいことです。夢を話せる人をたくさん作りましょう、実現するための支援（お手伝い）を使いましょう。夢を実現させましょう！」等と、アドバイスがあったそうです。



午後からは、みんな楽しくワークショップ。

くじびきで選ばれた2人が互いに質問しあったり、「私がほめられてうれしい言葉」を発表し、みんなに言ってもらおうというゲームで楽しみました。



後日、本人部会で感想を聞くと、

「又村さんは、時には面白く、時には真面目に話をされて、わかりやすかった。また会いたいです。」

「夢を語るということは、素晴らしいことだと思います。」

「僕の話 みんなに聞いてもらえて、うれしかったです」

「又村さんが、自分の話をわかってくれたのが、うれしかったです。」と好評でした。

自分の夢を語り、仲間の将来への希望を聞き、大きな刺激を受けた一日となったようです。

特別ゲスト 又村あおいさんを囲んで記念撮影。
 (又村さんはどこにいるかな?)



レクリエーション

レクリエーションは今年も盛りだくさん。

午前は、趣向をこらしたいろいろなゲームで汗を流しました。

午後からは、ダンスサークル『スイートピー』さんと一緒に輪になって踊ったり、中新川エリアの本人さんを中心に、活発に活動している『まどかの会』の皆さんによる「よさこい」の披露があり、楽しく交流を深めました。

白熱した「じゃんけんゲーム」



— あたたかい 心と心のふれあいと 守ろう人権 —

会場いっぱい 輪になって踊ろう!



『まどかの会』の、かっこいい「よさこい」に、みんな夢中!
 (当日の画像がなかったため、以前、出演していただいた際のもので)



倒れないように、慎重に...



2人で協力して運ぼう

企画・運営をしていただいた(社福)新川会の職員の皆様をはじめ、県内施設・事業所職員の皆様、出演していただいた方々には、多大なご協力・ご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

平成30年度 富山県予算に対する要望回答

毎年、県当局及び県議会自民党県連政務調査会に対して、「予算要望書」を提出し意見を述べる機会をいただいております。今回、県議会自民党県連政務調査会からいただいた「平成30年度予算要望」に対する回答の中からいくつかご報告します。全体回答については、各支部長さんへ送付しておりますので、必要な方は、支部長さん、又は事務局へお問い合わせください。

地域共生社会づくりを進めるため、障害者差別解消法や県条例の普及・啓発、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の推進など、県民や企業、各種団体等への知的障害者理解啓発の一層の推進

県では、広報紙による法や条例の周知をはじめ、専門相談員による相談対応や紛争解決体制の整備、障害者差別解消ガイドラインの策定・周知を行っているところであり、今年度は新たに、障害特性や合理的配慮に対して分かりやすく解説した研修用ブックレットを作成し、事業者等が行う社員研修等に講師を派遣することで、現場で障害者に直接接する従業員等に理解を深めてもらう取組みも実施しており、引き続き理解啓発に努めてまいります。

(障害福祉課)

本人の高齢化や親亡き後を見据えて、市町村における成年後見人の育成と成年後見センターの整備促進など成年後見制度の普及・啓発

高齢化の進展に伴う認知症高齢者の増加や知的障害者等の地域移行の進展などにより、成年後見制度は今後ますます重要になると考えられ、県内での申立件数も、平成23年度の238件から、平成28年度は325件と増加傾向にある。

このため、県では、これまで、高齢・障害それぞれの分野で、市町村や事業者に対する研修や説明会などを通して制度の周知を図るとともに、市町村が実施する「市民後見人養成研修」や「申立費用・後見人報酬の助成」などについて支援を行っているところである。

国では、平成28年4月、成年後見制度の利用促進に関する法律が成立(同年6月施行)し、平成29年3月、同法に基づき「成年後見制度利用促進計画」が策定されたところであり、県においても、この計画を踏まえ、市町村や関係団体と連携を図りながら、成年後見制度の普及・啓発に努めてまいります。

(厚生企画課)

すべての子どもたちへの「心のバリアフリー」の指導を充実 するなど、幼少期からの福祉教育の推進

学校において、障害の有無を問わず、同じ社会に生きる人間同士として、ともに正しく理解し、助け合い、支え合って生きていくことの意義について、様々な教育活動を通し、発達の段階に応じて指導しており、今後もその充実に努めてまいります。

(小中学校課)

学校教育において、家庭や地域社会と連携した奉仕活動を行ったり、福祉施設などを訪問したりする活動を通じて、他人を思いやる優しさ、他人に共感できる温かい心を持ち、共に支え合って生きようとする児童生徒の育成に努めている。

(県立学校課)

家族にとって身近なところで緊急時の支援が得られる、シヨートステイの確保や日中一時支援等の充実

県では、現在、特別支援学級等に就学している児童生徒に対して、放課後等に遊びや育成の場を設ける「障害児わくわく子育て支援事業」等を実施している。

今後とも、障害児が地域で安心して生活できるよう、短期入所や日中一時支援など、在宅のセーフティネット機能の充実や、必要な事業の実施に努めてまいりたい。

(障害福祉課)

障害者の高齢化や認知症化、重度化に対応できるよう、障害福祉制度と介護保険・医療との連携や、共生型サービスの推進

障害者が65歳以上になっても使い慣れた事業所においてサービスを利用しやすくするなどの観点から、高齢者や障害児者が共に利用できる「共生型サービス」が30年4月に創設されることとなっている。

また、一定の要件を満たす高齢障害者の費用負担の軽減制度が30年4月から実施されることとなっている。

県としては、新しいサービスや制度の円滑な実施が図られるよう周知に努めるとともに、医療・福祉等の連携については、国における連携体

— やさしさが 好きです

制の構築の検討状況などの動向を踏まえ、適切に対応してまいりたい。

(障害福祉課)

市町村における「地域生活支援拠点等事業」の普及・啓発と基盤整備の推進

地域生活支援拠点等の整備については、30～32年度を計画期間とする第5期障害福祉計画において、国の基本指針に基づき32年度末までに各圏域に1箇所以上整備することを目指すとしている。

国からは、施設整備補助事業の優先採択に係る条件等も示されているところであり、このような情報も紹介しながら、引き続き、地域生活支援拠点等の整備について、市町村等にも働きかけてまいりたい。

(障害福祉課)

知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施

知的障害を含め、さまざまな障害やその特性については、障害者差別解消ガイドラインやブックレットの作成などを通じ、理解啓発に努めているところである。

また、実際の災害には、平常時から防災訓練において実践的な訓練を行うことが重要であり、県の総合防災訓練においても、障害者団体にもご参加いただき、様々な障害特性を踏まえた訓練を実施しているところである。

県としては、障害特性への理解啓発に引き続き努めるとともに、効果的な防災訓練となるよう、市町村や関係団体のご意見もお聞きしてまいりたい。

(障害福祉課)

あなたの その運転

富山県知的障害児者生活サポート協会だより

平成29年度 収支決算報告

【運営の部】
(収入の部)平成29年4月1日～平成30年3月31日
(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	比較増減 (決算-予算)	備 考
制度運営費	5,699,500	5,710,160	10,660	H28年2,107人 H29年2,168人
雑 収 入	100	70	△ 30	
繰 越 金	5,959,075	5,959,075	0	
合 計	11,658,675	11,669,305	10,630	

(支出の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	比較増減 (決算-予算)	備 考
一般管理費	2,480,000	2,237,685	△ 242,315	
会議費	100,000	80,440	△ 19,560	
旅費	320,000	247,700	△ 72,300	全サボ総会、ブロック会議等
通信費	150,000	67,530	△ 82,470	
消耗品費	160,000	107,554	△ 52,446	
事務委託費	1,250,000	1,234,461	△ 15,539	口座振替手数料、事務委託等
共益費	500,000	500,000	0	県育成会へ
全国年会費	430,000	431,300	1,300	
全国入会金	30,000	28,200	△ 1,800	
事業費	2,890,000	1,809,701	△ 1,080,299	
日常生活 相談支援事業	900,000	676,500	△ 223,500	各支部等助成(16件)
就労相談支援事業	300,000	143,000	△ 157,000	エリア助成(3件)
権利擁護 相談支援事業	200,000	96,001	△ 103,999	支部長・相談員合同研修会
啓発事業	300,000	148,000	△ 152,000	エリア助成(2件)
入会記念品	1,150,000	730,000	△ 420,000	県育成会会報3回・総会冊子・広告協賛
	40,000	16,200	△ 23,800	心のとも 3色ボールペンセット
予備費	5,828,675	0	△ 5,828,675	
繰越金	0	7,162,419	1,333,744	
合 計	11,658,675	11,669,305	10,630	

【保険料の部】

(収入の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	比較増減 (決算-予算)	備 考
保 険 料	36,556,700	36,790,150	233,450	H28年 H29年 2,107人→2,168人

(支出の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	比較増減 (決算-予算)	備 考
保 険 料	36,556,700	36,790,150	233,450	

平成29年度 主な事業報告

《支部長・相談員合同研修会》

平成30年3月14日(水)

- ① 「障害福祉施策の動向について」
講師 県障害福祉課 自立支援係長 岩城 弘幸 氏
- ② 「県条例の普及啓発と相談体制について」
講師 県障害福祉課 広域専門相談員 岡田 千秋 氏
- ③ 活動発表と意見交換
(新川エリアと小矢部エリアの取組)

平成30年度 収支予算

【運営の部】

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	備 考
制度運営費	5,699,500	5,710,160	5,918,880	A @2,190×1,105人+1,970×30人 B @3,190×1,013人+3,020×30人 C @2,570×8人+2,430×40人
雑 収 入	100	70	100	
繰 越 金	5,959,075	5,959,075	7,162,419	
合 計	11,658,675	11,669,305	13,081,399	

(支出の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	備 考
一般管理費	2,480,000	2,237,685	3,430,000	
会議費	100,000	80,440	100,000	
旅費	320,000	247,700	300,000	全サボ総会、ブロック会議等
通信費	150,000	67,530	130,000	
消耗品費	160,000	107,554	150,000	パンフレット・消耗品他
事務委託費	1,250,000	1,234,461	2,250,000	口座振替手数料、事務委託費等
共益費	500,000	500,000	500,000	県育成会へ
全国年会費	430,000	431,300	430,000	200円×2,150人
全国入会金	30,000	28,200	0	30年度より廃止
事業費	2,890,000	1,809,701	2,540,000	
日常生活 相談支援事業	900,000	676,500	900,000	各支部等助成
就労相談支援事業	300,000	143,000	300,000	エリア助成
権利擁護 相談支援事業	300,000	148,000	300,000	エリア助成
啓発事業	200,000	96,001	200,000	相談員研修会
入会記念品	1,150,000	730,000	800,000	会報(4回)・県大会誌助成
	40,000	16,200	40,000	3色ボールペンセット
予備費	5,828,675	0	6,681,399	
繰越金	0	7,162,419	0	
合 計	11,658,675	11,669,305	13,081,399	

【保険料の部】

(収入の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	備 考
保 険 料	36,556,700	36,790,150	38,068,320	A @14,810×1,105人+11,960×30人 B @19,810×1,013人+16,130×30人 C @19,430×8人+15,940×40人

(支出の部)

(単位：円)

科 目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	備 考
保 険 料	36,556,700	36,790,150	38,068,320	A @14,810×1,105人+11,960×30人 B @19,810×1,013人+16,130×30人 C @19,430×8人+15,940×40人

あなたです！差別するのもされるのも

「心のもも運動」鉛筆等頒布のご協力ありがとうございます

県内の小・中・高の生徒、先生、保護者の皆様、毎年知的障害のある人達へのご理解・ご支援の一環として、鉛筆等頒布「心のもも運動」にご協力いただき、ありがとうございます。

平成29年度も皆さまの多大なご協力のお陰で、

当会では事業を充実させることができました。厚く御礼申し上げます。

なお、収益金のうち140,000円を県特別支援教育研究会に助成させていただきました。

合計 677,603 円 県特別支援教育研究会に140,000円助成

平成30年度につきましても、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

	小学校		中学校		高等学校		個数合計	校数合計
	個数	校数	個数	校数	個数	校数		
鉛筆	11,756	93	789	17	460	11	13,005	121
赤鉛筆	870	77	51	12	34	8	955	97
多機能ペン	383	74	120	15	30	7	533	96
替芯	202	60	239	15	59	10	500	85
消ゴム	2,396	84	1,003	16	181	10	3,580	110
マーカーペン	430	79	96	16	41	10	567	105
ネームペン	1,377	80	336	15	60	10	1,773	105
ボールペン	229	65	70	5	2	1	301	71

守る 人権 明るい未来

育成会の動き

日時	内容	日時	内容
[報告]		9/8(土)	地域事業所 職員研修会 (サンシップとやま)
6/18(月)	富山障害フォーラム 会長・事務局長 会議 (富山市)	9/13(木)	県議会 自民党政調会 県予算要望 (県議会)
6/27(水)	全国育成会連合会定時総会 (東京)	9/21(金)	ふれあいスポーツ大会 射水・高岡・氷見地区 (高岡市民体育館)
7/4(水)	県小学校長会・中学校長会 理事会 (富山市)	9/25(火)	県特別支援学校 PTA 連合会 研修会 (サンフォルテ)
7/5(木)・6(金)	障害者相談員 (3障害) 活動強化研修会 (金太郎温泉)	9/25(火)	心の輪を広げる体験作文・ポスター審査会 (県民会館)
7/11(水)	特別支援教育研究会 理事会 (富山市)	9/27(木)	ふれあいスポーツ大会 となみ地区 (富山県西部体育センター)
7/12(木)	サポート協会 理事会 (サンシップとやま)	9/28(金)	ふれあいスポーツ大会 富山地区 (富山県総合体育センター)
7/13(金)	県民福祉推進会議 (サンシップとやま)	10/9(火)	第18回全国障害者スポーツ大会結団壮行式 (県庁)
7/18(水)	支援学校長との懇談会 (呉羽ハイツ)	10/13(土)~15(月)	第18回全国障害者スポーツ大会 (福井県)
7/24(火)	富山障害フォーラム 会長・事務局長会議 (富山市)	10/21(日)	パイロットウォーク (富山市ファミリーパーク)
7/25(水)	県障害者施策推進協議会 (県庁)	10/27(土)・28(日)	第51回 手をつなぐ育成会東海北陸大会 三重大会 (三重県伊勢市)
8/4(土)	富山障害フォーラム (サンシップとやま)	[予定]	
8/5(日)	本人活動部会 (サンシップとやま)	11/8(木)	施設部会 (サンシップとやま)
8/22(水)	サポート協会 三者会議 (サンシップとやま)	11/25(日)	チャレンジアート落書き大会 (高岡市伏木ココペリ)
8/23(木)	社会福祉施設・団体連絡会議 (県民会館)	11/29(木)	施設部会 施設長との懇談会 (新川むつみ園)
8/26(日)	学齢期研修会 (サンシップとやま)	2/23(土)・24(日)	全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会 (京都市)
8/30(木)	支部長・相談員 研修会 (呉羽ハイツ)		
9/2(日)	県防災訓練 (氷見市)		
9/2(日)	本人活動部会 (四季防災館)		
9/5(水)	ふれあいスポーツ大会 にかわ地区 (ありそドーム)		

富山県手をつなぐ育成会 事務職員募集のお知らせ

- | | |
|------------|--|
| 1. 職 種 | 事務員 |
| 2. 採用人員 | 1名 |
| 3. 採用年月日 | 平成31年4月1日 |
| 4. 応募資格 | 年齢35歳～50歳（平成31年4月1日現在）
事務処理について必要なパソコン操作ができる方 |
| 5. 勤務時間等 | 9：00～16：00 その他本会職員就業規則による。 |
| 6. 待遇等 | 本会職員給与及び退職手当支給規定による。
(基本給、通勤手当、賞与、退職手当) 社会保険適用 |
| 7. 事務内容 | 育成会事務、生活サポート協会事務、庶務 等 |
| 8. 選考方法 | 面接試験 |
| 9. 応募期間 | 平成30年12月20日(木)～平成31年1月15日(火) |
| 10. 応募方法 | 市販の履歴書に該当事項を記入し、「親展」扱いの封書の表に、「職員採用履歴書在中」と朱書きのうえ、差出人住所氏名を無記名で必ず郵送のこと。 |
| 11. 試験日・場所 | 〒930-0094 富山市安住町5番21号
富山県手をつなぐ育成会 職員採用担当宛 |



ひとりひとりが 考える 実践活動

新湊支部
 四方正治様 (特別賛助会員)
 溪明園支部
 中市すず子様 (特別賛助会員)
 深松為雄様 (特別賛助会員)
 入善支部
 酒井尋充様 (一般賛助会員)

前回167号で賛助金のご支援をいた
 だいた方の一部記載ミスがありました。
 訂正し、お詫び申し上げます。

平成29年度 賛助会員名簿の訂正

平成30年7月豪雨災害 義援金の御礼

あたたかいご協力・ご支援を
ありがとうございました。

1,017,367円

(全国手をつなぐ育成会連合会を通して、
甚大な被害を受けた育成会員に見舞金が
支給されます。)